

第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 「誠実に明るい心を」

2 資料名 「どうすればいいの」(高学年1－(4) 誠実・明朗 東京書籍)

3 指導観

- 本主題は、自分の心をごまかさず自分に誠実に行動することが、自分の心を明るくするばかりでなく、他者の心も明るくできることに気付き、そのような行為を選択しようとする力を育成することをねらいとする。ここでいう誠実とは、自分本来の心の動きに正直に従うことであり、自分に対して決して嘘偽りのないようにすることである。自分に誠実であろうとするときには、苦しんだり悩んだりすることが多いが、自分の心の中で内省することは、よりよい自分を目指して向上するものである。そして、このような心はおのずから明るい心となって外に現れ、共に生きている他者の心にも作用し、共感をもたらす。このことは、よりよい生活を求めることに繋がるものと考えられる。

本資料は、主人公のけい子が、はちにひびが入ったのはひとみが倒したためであることに気付き、正直に言おうか言わないままでいようか迷う話である。物を壊してしまうことは、児童が生活経験として持っている。そのことを正直に言わないままでいることは、自分も後味が悪くなり、他者からの信頼も失うことになることを考えさせやすい。また、けい子の心情を交流することで、誠実に行動したときの明るい気持ちを伝え合ったり、考えたりすることもできる。よって、本資料はねらいを達成する上で効果的と考えられる。

- 本学級の児童は、忘れ物をしたときには自分から正直に言いに来たり、友達に対して傷つけるような言葉を言ったことに気付いたらすぐに謝ったりする姿が見られる。また、やらなければいけないことに一生懸命取り組んでいる友達を、素直に認める姿が見られるようになってきている。しかし、利害関係にとらわれ、相手によって嘘をついたりごまかしたり、自分がしてしまった失敗や過ちに対して誠実に行動できずにいる子どもも見られる。

このような子ども達に、誠実な心を発揮することが自分にとっても相手にとっても心を明るくすることに気付かせるとともに、そのためのよりよい行為を支える気持ちを考えさせる本主題はとても意義深い。

- そこで、本主題の指導にあたっては、自分に誠実に行動することが自他の心を明るくすることに気付き、よりよい行為を選択しようとする子どもを育てるために、自分の体験を出し合い、考えを深めていけるような授業づくりを進めていきたい。まず導入段階においては、問題意識を持たせるために、自分の誠実な気持ちと行動とのずれが生じている場面絵を提示する。次に展開前段では、けい子の迷う気持ちを捉えさせるために、心のものさしを使ってけい子の気持ちを表現させる。それをもとに自分が交流したい相手を選ばせ、自分の考えと友達の考えとを比較しながら、けい子の気持ちを少人数で交流する場を設定する。その後、2つの行為を支える根拠となる気持ちの相違点に着目させ、自分も他者も心を明るくするような行為を決定することの大切さに気付かせるために、全体で交流する場を設定する。そして展開後段では、誠実に行動することの素晴らしさを味あわせるために、自分のこれまでの生活を振り返りながら主人公に手紙を書く活動を位置づける。最後に終末では、誠実な心を持ち行動していこうとする実践への意欲を高めるために、自他共に明るい心になった教師の説話を行う。

4 本時の目標

- ひとみが故意にはちを割ったわけではないことを知りつつも、クラス全体が「知っている人は正直に言おう」とざわついた雰囲気になっている中で、どうすればいいのか迷う主人公の状況を分かる。
- 誠実さは、自分に対して嘘偽りなく行動することであり、誠実に行動することで自分だけでなく他者の心も明るくできることに気付く。
- 誠実な行為を選択し、行動することが自分の心を明るくするばかりでなく、他者の心も明るくし、よりよい生活につながることに気付く。

5 準備

- 場面絵・資料・板書用短冊・ネームカード・道徳ノート・シール

6 展開

| 分 | 子どもの学習活動 | 教師の支援活動 | 目標の達成度を見取る評価規準 |
|----|--|---|--|
| 5 | 1 場面絵を見て、自分のとる心情について話し合う。 めあて 本当のことを言おうとするとき、どんな気持ちが必要なのか考えよう。 | ※ 問題意識を持たせるために、自分の気持ちと実際の行動にずれが生じる場面絵を提示する。 | ○ ①「言えない自分」 ②「言わなければいけないと思う自分」 ③「言おうとする自分」 に気づく。 (発言・つぶやき) |
| 8 | 2 資料「どうすればいいのか」を読んで、主人公の心情について話し合う。 (1) 資料を読む。 | ※ 登場人物の特徴や主人公が置かれている状況を捉えやすくするために、短冊を提示する。 | |
| 15 | (2) どうすればいいのか迷うけい子の心情を話し合う。 ①けい子の気持ちを心のものさしに表現し、道徳ノートに書く。 | ※ 自分の立場を明確にするために、心のものさしを活用する。 ※ それをもとに自分が交流したい相手を選ばせ、友達のと比較しながら少人数で交流する場を設定する。 | ○ ①「何か言われるのが怖いから言えない」 ②「言わなければいけない」 ③「自分の過ちは素直に言うべきだから言う」 |
| 22 | ②少人数で交流する。 | ※ 交流後、自分の気持ちを見つめさせ、変化があった場合はネームプレートを移動させる。 | などと、けい子の心情を考えている。 (道徳ノート・発言・つぶやき) |
| 27 | ③全体で交流する。 | | |
| 40 | 3 自分の生活を振り返り、けい子に手紙を書く。 | ※ 誠実に行動することによって、自分が気持ちよくなるだけでなく、周りの人も気持ちよくなることを確かめさせるために、内容的なものでの意見の違いを拾う。 | ○ 「私は○○のようなことがあって良かったから△△すればいいと思うよ。」と、振り返りながら、手紙を書いている。 (道徳ノート) |
| 57 | 4 教師の説話を聞く。 | ※ 誠実に行動していこうとする意欲を高めるために、説話をする。 | ○ 友達の手紙を聞いて、「そうすればみんなすっきりなれるね。」と、うなずいたりつぶやいたりしている。 (様子・つぶやき) |
| 60 | | | |